

官報

號外

明治二十五年五月十二日

木曜日 內閣官報局

第三回衆議院議事速記録第四號

帝國議會

議事日程

明治二十五年五月十一日(水曜日)午後一時十五分開議

午後一時開議

- 第一 鐵道公債法案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第三 私設鐵道買収法案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第五 震災地方租稅特別處分法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

議長(星亨君) 諸君、是ヨリ例ニ依リマシテ御報道致シマス

(水野書記官長朗讀)

鹽田與造君、新井啓一郎君、箕浦勝人君ヨリ鐵道始末ニ對スル質問書ヲ提出セラレタリ
田畑地價特別修正法案審查特別委員ニ湯淺治郎君、長谷場純孝君、足立孫六君、立入奇一君、中小路與平治君、和田彦次郎君、藥袋義一君、川原茂輔君、早川龍介君當選セラレタリ
和田彦次郎君外六名ヨリ提出ノ田畑地價特別修正法案モ併テ右ノ委員ニ付託セラレ
出版法案審查特別委員ニ末松謙澄君、坂元規貞君、箕浦勝人君、三崎龜之助君、稻垣示君、鵜飼郁次郎君、神保小太郎君、波多野傳三郎君、村松龜一郎君ヲ指名セラレ
立石寛司君ハ佐藤里治君提出ニ係ル鐵道擴張法案賛成ヲ取消ス旨申出ラレタリ

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經ザルモ參考ノタメ掲載ス)

- 第一 鐵道始末ニ對スル質問主意書
- 第二 政府ハ全國ノ要地ヲ調査シテ鐵道敷設ノ目的ヲ一定シ漸次普及ノ效ヲ奏スベキ準備既ニ整ヒ居ルヤ如何
- 第三 何故ニ政府ハ鐵道ノ官設民設ニ關シ屢々其方針ヲ變更シタル乎
- 第四 何故ニ中山道鐵道ヲ東海道ニ變換シタル乎
- 第五 東海道鐵道落成セントスルノ際沼津小山間ニ複線ヲ増設セシカ最初ヨリ其設計ヲ爲ス能ハサリシ乎
- 第六 大府武豐間ニ鐵道ヲ敷設シタルノ目的如何
- 第七 長濱深谷間ニ鐵道ヲ敷設スルノ必要アリシ乎
- 第八 鐵道用ノ外國品ヲ買ヒ入ル、手續ハ如何

衆議院議事速記録第四號

明治二十五年五月十一日

議長ノ報告

鐵道始末ニ對スル鹽田與造君ノ質問

第八 官設鐵道ノ工業ヲ適當ナル請受人ニ任セズ政府ノ直轄工事ト爲スハ何故ナリ乎

第九 政府ハ日光鐵道敷設工事ニ拒障ヲ爲シタル事實如何

第十 官設鐵道ニハ運換流動金ノ外ニ貳百八拾萬圓ヲ備ヘ置クハ何等ノ必要アル乎

第十一 明治二十二年鐵道局長井上勝氏ハ日本鐵道會社ヨリ貰ヒ受ケタル株券六百株ハ如何ナル性質ノ者ナル乎

右ノ件々議院法第四十八條ニヨリ提出ス 國務大臣本院ニ出席シテ答辯アラシム事ヲ望ム

明治二十五年五月十一日

提出者 鹽田與造 新井啓一郎 箕浦勝人 贊成者

植木志澄 伊藤大八 荒谷桂吉 江原素六
西村甚右衛門 植松文次郎 岡精逸
立石秀岐 愛澤寧堅 武市安哉
影山萬次郎 齋藤圭次 加藤淳造
鈴木雲平 佐藤野政 榑喜洋芽
立川雲平 藤野政高 岩崎萬次郎
伊藤德太郎 高橋與一 高梨正助
齋藤勘七 福井直吉 朝永慎三
小倉良則 室孝次郎 福田久松
折田兼至

○鹽田與造君(二百四十二番) 唯今本員ハ鐵道始末ニ對スル質問書ヲ出シテ置キマシタガ、今日ハ鐵道ニ關スル法案ノ第一讀會デゴザイマスカラ、此際ニ於テ要領ヲ簡單ニ申述ベマシタラ、大ニ利益アルコト、思ヒマスカラ

○議長(星亨君) 少シ御待チナサイ、今會議ヲ開クト云フコトヲ報道シテカラ

諸君是ヨリ會議ニ取掛リマスカラ

○鹽田與造君(二百四十二番) 唯今申シタコトヲ

(此時議長首肯ス)

(鹽田與造君演壇ニ登ル)

○鹽田與造君(二百四十二番) 豫テ質問趣意書ニハ、明瞭ニ記シマシタ積リデアリマスルケレドモ、其趣意ノアル所ヲ貫徹センガタメニ、要領ヲ聊述ベ様ト思ヒマス
便宜ノタメニ數項ニ分ケテゴザリマスルガ、第一ヨリ第十一マデノ箇條ニ爲シテ居リマス、第一ハ政府ハ全國ノ要地ヲ調査シテ、鐵道布設ノ目的ヲ一定シ、漸次普及ノ效ヲ奏スベキ準備既ニ整ヒ居ルヤ如何ト云フノ問題デアリマスガ、此事ハ既ニ昨年即チ二十四年三月衆議院議員ノ中ヨリ鐵道ノ方針ニ就キマシテ、當局主任者ノ考察ヲ叩イタコトガアリマシタノデ、其時ニ至リマシテハ從來別ニ一定ノ方針ト云フモノハナイト云フノ御答、所謂是モ一時彼モ

一時ト云フ様ナ臨機應變ノ答辯ヲ得マシタコトデゴザリマシタ、而シテ其鐵道ノ哩數ト云フモノニ就テ、我國デハドレ位要スルモノデアルカト云フ必要ノ點ヲ問ヒマシタトキニ至リマシテハ、長官ハ何ト答ヘタカト云フト、先ヅ二千哩アツタラバ宜カラウ、斯ウ云フコトデゴザリマシタ、然ルニ又迦テ去ヌル明治二十二年鐵道ノ發起人ノ公會ガゴザリマシタコトガアツタ際ニ由リテ述ベタルノト相違フ所ノモノガアル、延長ノ大略五千哩ニナラナケレバナラヌ、斯ウ後ニハナツテ居ル、而シテ見ルト同シ政府デアツテ同ジ職ニ在ル所ノ、其長官ノ言フ所ノ初メハ二千哩デ宜イ、後ニハ五千哩ナケレバナラヌト云フ様ナコトハ少シバカリノ差デナイ、殆ド三千哩ノ違ヒデア、此三千哩ノ違ヒト云フコトハ、工事ニ致シマシテモ或ハ設計ノ上ニ致シマシテモ、又ハ全國普及ヲ圖ルト云フノ布設ノ大方針ニ致シマシテモ驚クベキ相違デア、斯ノ如ク相違ノアルコトデアツタナレバ、如何ニモ是マデ政府ガ全國ニ普及スルコト云フノ目的ニ就キマシテ、一定シテ居ラナカッタノデハナイカ、非常ニ之ヲ疑フノデゴザリマス、ソレカラ又鐵道公債法案ノ確定線路トシテ掲載致シマシタル所ノ中ニ、八王子甲武線此設計ハ聞ク所ノ線路ヲバ匆卒ニ見極メテ付ケテ、サウシテハ確定線路デアルト云テ、此議會ノ協賛ヲ求ムルト云フ様ナコトニ我々ハ聞取リマシタ、今一ツ週ヲテ福島青森線、隨分難路ノ聞エハアリマス線路デア、此實地ノ調査ト云フコトモ十分達ケタリト云フコトヲ聞カナイ中ニ、最早モ確定線路デアルト云フコトニナツタト云フコトヲ聞イテ居ル、此二線路ノ如キコトニ致シマシテモ既往ノコトニハゴザリマスケレドモ、斯ノ如キノ大早計ヲ以テ隨分費用ヲ要シ、將來軍事、經濟ノ大事ニ關スルモノヲ斯ル輕卒ノ測量ヲ以テ、之ヲ確定ナリトスル様ナコトデアツタナラバ、實ニ驚ク可ク嘆クベキノ結果ガ起ルデアラウ、之ヲ心配致スタメニ先ヅ以テ第一ニ掲ゲマシタル要項ハ、概略斯ノ如クデザリマス

第二ニ至リマシテハ、我國ノ鐵道ハ官設ニスルカ、若クハ民設ニスルカト云フコトニ就キマシテ、明治十三年ノ頃ニ或ル北陸ノ有志、即チ東北鐵道ト唱エマシテ之ヲ北陸ニ私設セシムルコトヲ出願致シタデゴザリマス、其當時ハ政府ハ即チ官設ヲ執ツテ益々官設ノ事業ヲヤツテ居ル折柄デア、ソレカラレカハ知レシメセケレドモ、東北ノ鐵道ノ有志者ガ請願スルトキニ當リマシテハ、恬トシテ顧ミザルモノ、如ク、スゲナク逐斥ケラレタコトデアツタサウデア、然ルニ其後ニ至リマシテハ明治十六年ノ頃ニ、日光鐵道ノ私設ヲ願出テマシタル所ガ、是亦許可ヲ與ヘラレナイ、然ルニ十九年ニ至リマシテ兩毛鐵道ノ私設ト云フモノヲ願出デタルトキニ至ツテハ、是ハ許可ニナツタ、スルト云フト二十年五月ニ至リマシテハ、ソレカラ爾來引續イテ其處彼處ニ皆ナ私設鐵道ヲ許可スルト云フコトニナツタトキニ、政府ハ私設主義ヲ執ツタ、即チ民設鐵道主義ヲ執ツタト云フコトハ、此時ニ於テ大概一般ノ人ノ確メタコトデアラウト思フ、然ラバ飽クマデモ政府ハ私設デヤツテ居ルカト申シマスルト云フト、豈圖ランヤ昨年ニ至リマシテハ鐵道公債法案ヲ以テ、普ク官設ヲ以テ布設スルト云フコトニナツタ來タ、然ラバ官設ヲ益々爲スノデアアルカト云

フト、一ツ疑フベキモノハ北海道ノ炭礦鐵道ノ如キ如何ナコトデゴザリマス、先キニハ官設デ莫大ナ金額ヲ以テ之ヲ布設シナガラ、忽ニシテ國會ノ開ケル前年ニ於テハ之ヲ又拂下ヲ爲シテ仕舞フ、即チ私設ニ爲シタルノデアル殆ド變轉極リナキ有様デゴザリマス、故ニ是等ノコトニ就テハ果シテ官設民設ト云フコトニ就テ、確定ナル即チ確ナル所ノ定メガアルカ、何故ニ又是迄屢々其方針ヲ變換致シタカト云フノ疑ガアル爲ニ、何故ニ政府ハ鐵道ノ官設民設ニ關シ、屢々其方針ヲ變更シタカト云フコトヲ、私ハ質問シヤウト云フノ趣旨デゴザリマス

第三ニハ中仙道ノ鐵道ヲ東海道ニ變換致シタト云フコトニ附キマシテハ、是ハ頗ル大ナル問題デゴザリマス、抑、明治十六年十二月貳千萬圓ノ公債ヲ募リマシテ、中仙道ノ鐵道ヲ布設シタト云フコトハ、是亦諸君モ御承知ノコトデゴザリマス、然ルニ十九年七月ニ至リマシテ、閣令第二百二十四號ヲ以テ之ヲ東海道鐵道線ト變換致シマシタトキニ、其閣令ノ要旨ハ何デアアルカト申シマスレバ、中仙道工事既ニ前後數里ノ間竣工ヲ告ゲ、稍ク其中部ニ著手センマスルニ當リ、之ガ實測ヲ經ルニ、其地形タル險峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレバ、當ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス、其工費ノ如キモ自カラ多キヲ加エ、從テ竣工ノ期又甚ダ遲速ノ差アルヲ發見シタルタメ、別紙甲乙號ノ通云々、是ニ由ツテ鐵道長官ノ具狀シタルコト、ナリマシタルデゴザリマス、ケレドモ中仙道ヲ東海道ニ移シタト云フコトハ、即チ閣令ヲ以テ定メ、且ツ鐵道長官ノ具狀スル所トナリマシタルナレドモ、今又ドウ云フ趣ヲ爲シテ來タカト申シマスレバ、軍事ト經濟ノ二ツヨリ必要ヲ感シテ、尙ホ此ノ中央線ト云フモノヲ布カナケレバ、軍事ト經濟ノ二ツヨリ必要ヲ感シテ、尙ホ此ノ中央線我々ノ解シ得ザルコトデア、其時ニ長官ガ申サレマシタルコトヲ、此ニ書記シテ申シマスレバ、中仙道ノ鐵道ヲ布設セントスルモノハ、蓋シ主義ノ大ナルモノアラシカ、然レドモ先ヅ東京ト京阪間ト聯絡ヲ通ズルニ在ルコトデア、然ルニ沿道從來ノ僻邑ノ地ニ運輸ノ便ヲ與ヘ、兼テ荒蕪ヲ闢キ物產ヲ繁殖セントスルニ在リ、今測量ノ實蹟ニ據リ之ヲ熟考スルニ、線路ノ經由スル所、山腹ヲ洞シテ往クニアラザレバ、窮谷ニ沿フテ走ル、之ヲ概言スレバ全部鐵道ト稱スルモ亦可ナリ、加之ナラズ其土地タル礫礫不毛ニシテ到處窮鄉僻邑ナラザルハナク、接近ノ村落ニダモ相往來交通スルノ便少ナク、地形險、工事ノ難キハ固ヨリ避ケザル所ナリト雖モ、併テ鐵道ノ價格ヲ失フ、之ヲ經營スルモ遂ニ徒勞ニ歸シ、曾テ其效用ヲ見ズ、併テ鐵道ノ價格ヲ失フ、之ヲ經營フルニ難キニ鐘鼓ヲ與ヘ、覽者ニ利器ヲ貸スト異ナルコトナシ、況ヤ殖産開墾ノ業固ヨリ言フ俟タザル所ナリ、斯様申シテゴザリマス、斯様申シテゴザリマスケレドモ、其事實ドウデゴザリマセウ、即チ中仙道ニ沿フテ居ル所ノ松本ノ蠶絲、諏訪伊那ノ製絲、木曾ノ良材、是等ノモノハ、アル處ヲモ礫礫不毛ノ地ト申シマセウカ、是等ノ地モ窮鄉僻邑ト申シマセウカ、聞ク所ニ據リマスレバ、最大利源タル貳千五百萬圓ノ製絲ハ何處ヨリ出ルカ、松本諏訪伊那信州ノ南部等デ以テ出來タル所ハ壹千萬圓ニ下ルト雖モ、左マデ達フコトハナイト聞イテ居ル、木曾ノ山林ノ如キ申スマデモナク、諸君知ラル、通良材殆ド充テ滿チテ居ル所デア、又人口ヲ以テ申シマシテモ戸數ヲ以テ申シマシテモ、千戸或ハ一万戸ニ達スル土地モゴザリマス、是等ノ處モ矢張り窮鄉僻邑ト申シマセウカ、併シ是等ノ處モ窮鄉僻邑トスルナラバ、又再ビ經

濟上利益ノ點ヲ見出スニ因ツテ、中央線ヲ引カナケレバナラヌト云フコトハ、ドウシテ起ルデゴザリマセウ、去リトモ是等ノ土地ハ最初ハ窮郷僻邑ノ地デアツタガ、五年過ギタ今日ハ斯ノ如クマデ繁盛ヲ爲シタカト云ヘバ、決シテサウデゴザリマセヌ、初ヨリ此通デアツタニ違ナイ、然ルヨ今ニシテ忽チ翻ツテ以テ中央線ノ軍事ニ必要ナルコトハ申スマデモナイコトデゴザリマスガ、利益即チ經濟ニ於テ十分用ヒラル、ト云フモノデモ、今ニ至ッテ説明スルト云フコトハ、先ニハ非トシ今ハ是トシ、殆ド政府ノ方針トスル所ハ我ニニ解シ得ザルノ第三デゴザリマス、ソレ故ニ質問ヲ致ス譯デゴザリマス

第四ノコトハ東海道線中鐵道落成セントスル際、沼津小山間ニ複線ヲ増設セシガ、最初ヨリ其設計ヲ爲ス能ハザリシカト云フコトデゴザリマスガ、是レ小ニ似テ決シテ小デアアルマイト思ヒマス、若シモ斯様ナル過ガ是ヨリ先キノ鐵道ニ屢々起ルト云フコトデアツタナラバ、容易ナラザルコトデアラウト思ヒマス、先ヅ以テ東海道鐵道ノ箱根山ノ峻ハ人ノ知ル處デゴザリマス、是ハ鐵道ヲ布設スルニ當リマシテハ、ソレノ勾配モ質サナケレバナラヌ、其設計モシナケレバナラヌ、斯クナシタデアリマセウガ、何故ニ爲シタトキニ當リマシテ、アノ小山沼津間ノ間ニ限ッテ複線ヲ置カレ、以テ無駄ナ線路ヲ置キマスカ、是等ハ如何ナル設計ノ過カ、或ハ如何ナル事柄ヨリ斯ル不體裁ヲ爲シタルカ、之ヲ聞カント欲スルモノデゴザリマス

第五ニハ大府ト云ヒマスカ……大府武豐、是ニ鐵道ヲ布設致シマスル目的如何、此事モ同シク哩少數デアツテ、小事ニ似テ居リマスケレドモ、經濟上決シテ小事デアアルマイト思ヒマス、此箇所ニ抑、鐵道ヲ布設致シマスルノハ何ノ目的デアアル、一方ニハ口ク是ハ工事ノ目的デアアル、諸物貨即チ様々ノ物ヲ運ブタメニ工事デアアル、一方ニハ此地ニ鐵道ヲ開イテ以テ營業上ノ目的デアアル、斯様ニ聞イテ居リマスガ、何方ニシテモ是ハ分ラヌコトデゴザリマス、何方カ一ツニ定マラナケレバナラヌ、一ツニ定マラナラバ是ヨリ起ル所ノ損失ト云フモノハ、顯然現ル、デアラウト思ヒマス、爲ニ此邊ヲ舉ゲテ問ヒマス次第デゴザリマス

其他第六ハ長濱深谷間ノ鐵道ヲ布設スルノ必要アリシカ、ドナタガ見テモ分リマス、彼ノ所ニハ三角形ガアル、三角形ヲ置イタノハドレ程アノ三角形ガ必要ダ、アレヲ一本置ク……、方々ニ曲ルト云フノハドレ位不便ノタメニ斯様ナコトヲ致シタカ、是等モ疑ノ一ツデゴザリマス、ソレ故ニ問ハント欲スル所ノモノデゴザリマス

其外第七ハ鐵道用ノ外國品ヲ買入レタル手續如何、聞ク所ニ依リマスレバ、總テ此鐵道用ノ物ハ外國品ヲ買入ルノハ……、必要ナ分ハ已ムヲ得ナイガ、是ヲ悉ク英人ノまんかんぶらをとんカ云フ人ノ手ヨリ買フサウデゴザリマス、隨分此事ニ附キマシテハ、他ヨリ競争者モアルト云フコトヲ聞イテ居ル、他ニ求メテ總テ得ラレルト云フコトヲ聞イテ居ル、然ルニ唯獨リ此者ニノミ託スルト云フコトハ、如何ニモ不審ノ一ツデゴザリマス、是ヲ敢テ問ハント欲スル一ツデゴザリマス

第八ハ官設鐵道ノ工事ヲ適當ナル受負人ニ任セズ政府悉ク直轄工事ト爲ス其意如何、此事ハ一寸聞キマスルト如何ニモ大事業デアアルカラシテ官設デナケレバナラヌ、民設デハ到底出來ヌト云フコトハ一寸見易イ様デゴザリマス

ス、併ナガラ抑、此場合ニ當ツテハ、此ノ如キ事ガアルデゴザリマセウ、併シ最早十年餘リ鐵道ガ四方ニ布設シ、始マツテヨリ十年餘リ今日ニ至ッテ、隨分悉ク人民ノ受負ト爲サズトモ、其部分ノ内ヲ以テ隨分ナルコトモ出來ルデアラウ、然ルニ之ヲ悉ク直轄工事トシテ以テヤルト云フコトニ附テハ、隨分弊害ノミナラズ是ヨリ生ズル不經濟ノ點ガ様々アルト云フコトヲ聞イテ居リマス、併ナガラ此事ハ如何カアルコトデゴザリマセウニ依ツテ、宜シク其說ヲ聞イテ以テ述ベントスル所以デアリマス、先ヅ第八ハ是デス

第九ニ至ッテハ政府ガ日光鐵道布設工事ニ故障ヲナシタコトガアル、斯ウ言フノデス、曩ニ日光鐵道ガ布設ノ許可ヲ得マスルヤ、此工事ニ振ツテ著手シヤウトスル時ニ當ツテ、尤モアノ時分ハ諸方ニ工事ノ盛ナル時分デアリマシタカラ、其處彼處ト選ンデ、聞ク所ニ依レバ刺賀商會ニ託シテ工事ヲ受負ハシタト云フコトガアル、然ルニ其當時鐵道長官ハ非常ニ之ニ故障ヲ申シテ、到底工事ニ著手スルコトガ出來ナイカラ、鐵道長官ハ此刺賀商會ニフコトニナツテ、平和ニ局ヲ結ンダ、ソレガ爲メニ日光鐵道ハ此刺賀商會ニ向ッテ非常ナル價金ヲ出シタト云フコトガアルサウデス、斯ノ如キコトハ之ヲ政府ガ民設事業トナシ置キナガラ、斯クマデニ干涉シテ以テ損害ヲナシシメルト云フコトハ、殆ド既往ノ日本鐵道會社ノ内ニ加ハツテ居ル、然ラバ餘程損失ヲシテ居ルデアラウ、損失ヲシテ居ルモノヲシテ日本鐵道會社ニ加エタ、日本鐵道會社ハ如何ニ大ナルモノトハ云ヒナガラ、是亦一個獨立ノモノデハナイ、非常ナル……様々ナル風聞ヲ受ケテ居ル位ニ人ノ耳目ニ拘ハル所ノ其會社ガ矢張り引受ケタト云フナラバ、多少轉輾シテ以テ此禍ハ此内ニ這入ツタト云ハナケレバナラヌ、如何ニモ解シ得ザルコトデゴザリマス、爲ニ之ヲ問ハントスルモノデゴザリマス

其外第十條第十一條ノ箇條ハ是ハ理由ヲ一々申シマセヌデモ箇條ニシテ分ルコトデゴザリマス、故ニ此事ハ箇條書ニアル通りヲ申シテ宜カラウト思ヒマスカラシテ、敢テ辯明ハ致シマセヌ、其箇條書ハ第十ハ官設鐵道ニ運轉流動金ノ外ニ貳百八拾萬圓ヲ備ヘ置ク、其貳百八拾萬圓ヲ備ヘ置イテ、何等ノ必要ニスルノデアアルカ、如何ニモ國費多端ナル此時ニ當ツテ貳百八拾萬圓ヲ備ヘ置クト云フコトニ附イテハ、頗ル疑ガアルカラ、之ヲ問ハント欲スルデアリマス、第十一ハ明治二十二年鐵道局長官井上勝氏ガ日本鐵道會社ヨリ貰ヒ受ケタル株券ハ六百株、即チアルト云フコトデゴザリマスガ、是ハ如何ナル性質ノモノデアリマス、果シテ事實デアアルヤ否ヤ世上ノ惑ヲ解キ自分ノ惑ヲ解カンガタメニ、之ヲ併セテ質問致スノデゴザリマスガ、是等ノモノ今此時ニ當ツテ強ヒテ問ハント欲スルノハ、苟モ鐵道公債法案一タビ遂ニ解散ノタメニ上奏ノ理由トマデニナツタ、此法案ハ是ヲ議スル前ニ當ツテハ、聊タリトモ疑ノアル所ハ宜シク質シ、公明正大以テ此法案ヲ議セントスルノ第一讀會デゴザリマス、是ニ先立ツテ、聊意見ヲ述ベタコトデゴザリマス

第一 鐵道公債法案(政府提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 諸君是ヨリ本日ノ議事日程ノ第一ニ即チ取掛リマス、デ第一ノ議事日程ハ鐵道公債法案デゴザリマスガ、大層長イサウデアリマスカラ、

朗讀ハヤメマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參考ノタメ掲載ス)

鐵道公債法

第一條

鐵道公債ハ左ニ記載スル鐵道ヲ布設シ並軍用停車場及其接續支線ヲ設備スル費用ニ充ツル爲メ三千六百萬圓ヲ限リ明治二十五年ヨリ九箇年ニ漸次募集スルモノトス

一 神奈川縣八王子ヨリ山梨縣甲府ニ至ル鐵道

一 廣島縣三原ヨリ山口縣下ノ關ニ至ル鐵道

一 佐賀縣佐賀ヨリ長崎縣佐世保ニ至ル鐵道

一 日本鐵道會社鐵道白河仙臺間線路ヨリ山形縣山形秋田縣秋田ヲ經テ青森縣青森ニ至ル鐵道

一 官設鐵道敦賀線路ヨリ福井縣福井石川縣金澤ヲ經テ富山縣富山ニ至ル鐵道

一 新潟縣直江津ヨリ新發田ニ至ル鐵道及本線ヨリ岐シテ新潟若クハ其近傍ニ至ル鐵道

一 既成官私鐵道ニ要スル軍用停車場及其接續支線

第二條 此公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 此公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

第四條 此公債ヲ以テ募集シタル金額ハ繼續費トシテ明治二十五年度ヨリ九箇年間ニ支出スルモノトス

鐵道公債法案理由書

鐵道ハ全國ノ經濟社會ノ進運及政治軍事等ト重大ノ關係ヲ有シ富國ノ要具タルコト辯明ヲ俟タズシテ一般ノ是認スル所ナリ然レトモ富國ノ要具タル鐵道本來ノ效用ハ線路全國ニ普及シ幹支相連絡スルノ後始メテ之カ完全ヲ見ルヲ得ヘシ本邦現在ノ鐵道ハ管ニ樞要ノ地ニ普及セサル而已ナラス短距離ノ線路各所ニ孤立シ管テ連絡統一スル所ナシ隨テ未ダ鐵道ノ效用ヲ全クスルノ域ニ達セス之ヲ今日ノ儘ニ放棄シ更ニ其延長普及ヲ計ラサルトキハ實ニ國力ノ發達ヲ阻滯シ經濟上軍事上亦頗ル不利益ナル所アルヲ認ム依テ茲ニ鐵道普及ノ計畫ヲ起シ年々期シテ布設工事ヲ竣功セシメントス

本邦ノ現況ニ就キ全國樞要ノ地ニ鐵道ヲ布設シ各線ノ連絡ヲ全クセントスルニハ延長大約五千二百哩ノ線路ナカルヘカラス但既成官私鐵道及目下布設中ノ線路ハ合計千六百餘哩ナルヲ以テ之ヲ控除スレハ今後布設ヲ要スル線路ハ大約三千六百餘哩ナリ

三千六百哩ノ鐵道ヲ布設スルハ一大事業ニシテ之ヲ完成スルニハ概計殆ト貳億千六百萬圓ヲ要ス加之其線路ノ大半ハ資本ニ對シテ直接ノ收益ヲ得ルコト頗ル寡額ナルヘク即收益ヨリモ寧ロ經濟上軍事上等公共ノ利益ヲ主眼トスルヲ以テ之ヲ私設會社ノ經營ニ放任スルトキハ竟ニ成功ノ期ナカルヘシ蓋シ公共ノ利益ヲ主眼トスル鐵道ハ營利ノ目的ト並行スヘカラスナルモノナルカ故ニ一私人若クハ一會社ヲシテ之ヲ建設維持セシメントスルハ事

實上決シテ行ハレサルモノトス若シ然ラスシテ營利ヲ目的トスル私設會社ニ其經營ヲ委ヌルトキハ或ル地方ニ在テハ稍鐵道ノ便ヲ得セシムルコトアルモ他ノ地方ニ向テハ絕テ鐵道ヲ布設セス隨テ線路ノ首尾環聯幹支接續ヲ望ムコトヲ得ス殊ニ幾多ノ私設會社孤立シテ各々短線ノ鐵道ヲ經營スル如キハ建設費營業費共ニ長大ノ線路ニ比シテ常ニ多額ヲ要シ其放下シタル資本ニ對シテ相當ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ス之ニ反シテ長大ナル線路ヲ一手ニテ管理シ其營業ヲ統一スルトキハ經營上總テ供給流用ノ便ヲ得テ甲乙線ノ餘裕ハ丙丁線ノ缺損ヲ補ヒ以テ鐵道ノ普及ヲ完成スルコトヲ得ヘシ且夫鐵道ハ郵便電信ノ二業ニ於テ元來公共ノ用ニ供スヘキモノナレハ收益ノ多カランヨリモ寧ロ公共ノ利益ヲ計ラサルヘカラス既ニ公共ノ用ニ供シ公共ノ利益ヲ計ルヘキモノタル以上ハ其建設管理舉ゲテ國家ノ事業ト爲スヲ當然トス依テ自今本邦ノ鐵道ニシテ旅客荷物ヲ運搬スルモノハ總テ國家之ヲ建設經理スル設立物トナサントス

此理由ニ依リ前記三千六百哩ノ鐵道ハ總テ國費ヲ以テ布設スルノ方針ヲ取ラントス然レトモ其工事固ヨリ容易ナラスシテ且巨額ノ經費ヲ要スルヲ以テ時日ト經費トノ許ス範圍內ニ於テ其大成ヲ期セサルヘカラス即其工事ヲ數期ニ分チ追次布設ニ著手セントス依テ茲ニ先ツ第一期ニ起工スヘキ線路ヲ舉ゲンニ左ノ如シ

八王子甲府線 本線ハ延長凡五十四哩ニシテ東京名古屋ヲ聯絡スヘキ軍事上最緊要ナル中央鐵道ノ一部分ナリトス此中央鐵道ノ方路ニハ信州上田ノ近傍ヨリ信州ノ南部ヲ經テ名古屋ニ達スルモノ或ハ八王子ヨリ甲府ニ出テ夫ヨリ信州ノ南部ヲ經テ名古屋ニ達スルモノ等ノ數線アリ之カ大體ニ就テ其得失ヲ比較スルニ甲府ニ出テ信州ノ南部ヲ經過スル線路ハ最直線ニ近キモノナレハ距離隨テ最短ク且ツ物產豐饒ナル甲府信ノ要地ニ運輸ノ便ヲ開通スルニ依リ經濟上軍事上共ニ利益アリテ將來維持上ノ見込亦確實ナルモノトス但地形險峻工事困難ナル所尠カラサルヲ以テ精密ナル實測ヲ施シタル後ニ非レハ其線路ノ距離及工事等ヲ豫定スルコトヲ得ス依テ茲ニ其一部分トナルヘキ八王子甲府線ヲ提出シ之ヲ第一期ニ起工スルモノトシ其工費ハ概計四百九拾貳萬圓ヲ要ス甲府ヨリ信州ヲ經テ名古屋ニ至ルノ線路ハ實地ニ就キ測量調査ヲ爲シタル上之カ工費ヲ豫算シテ第一期ノ年限中ト雖モ工事ト都合次第繼續施工スル目的ナルヲ以テ他日更ニ帝國議會ノ協賛ヲ求メントス

三原馬關線 本線ハ延長凡百五十九哩ニシテ工費概計七百拾五萬五千圓ヲ要ス本線ハ國防上最緊要ノ點ナル馬關ニ達スルモノニシテ且ツ山陽ノ要路ニ通スルモノナレハ經濟上亦甚ダ必要ナリトス

佐賀佐世保線 本線ハ延長凡四十一哩ニシテ工費概計百六拾四萬圓ヲ要ス本線ハ九州鐵道會社ノ布設免許ヲ得タルモノナレトモ同社ハ佐賀以西ノ工事ヲ中止セルヲ以テ其成功ノ時期スルコト能ハス然ルニ佐世保ノ軍港マテ鐵道ヲ及ホスハ國防上最緊要ニシテ猶豫スヘカラスサルヲ以テ今回速ニ之ヲ布設セントス

敦賀富山線 本線ハ延長凡百二十六哩ニシテ北陸線ト稱シ敦賀線ヨリ福井金澤ヲ經テ富山ニ達スルモノナリ本線ハ人口稠密物產亦饒多冬季船舶航行ノ便ヲ缺ク地方ニ通スルモノニシテ最速ニ布設ヲ要スルモノトス其工費ハ

概計五百六拾七萬圓ヲ要ス
福島青森線 本線ハ日本鐵道會社線路白河仙臺間線路ヨリ米澤、山形、秋田、弘前ヲ經テ青森ニ達スルモノニシテ延長凡三百九哩ナリ本線ハ北陸線ト稍其趣ヲ同クセル人口稠密土壤肥沃ナル地方ニ運輸交通ノ便ヲ與フルモノニシテ且國防上ニモ日本鐵道會社ノ線路ト相特テ極メテ必要ナリトス其工費ハ概計千貳百三拾六萬圓ヲ要ス

直江津新發田線 本線ハ延長凡百十哩ニシテ直江津ヨリ新發田及新潟近傍ニ達スルモノニシテ其工費ハ概計三百八拾五萬圓ヲ要ス今ヤ信越線ハ直江津マテ開通スルモ其以東信濃川沿岸ノ沃野物產饒多人口稠密ナル部分ハ依然運輸ノ便ヲ缺キ殊ニ其地方タル冬期船舶航行ノ便ナキニ由リ直江津ヨリ線路ヲ延長シテ前記ノ沃野ニ達セシメ以テ其地方ニ運輸ノ便ヲ與ヘ同時ニ信越線ノ利用ヲ全フセシムルハ甚タ必要ナリトス

前記各線ヲ布設スルノ外軍事上既成鐵道ノ利用ヲ可成完全ナラシムルカ爲メ東京大阪名古屋仙臺等ノ如キ師團所在地若クハ其他分營所在地ニ於テ軍用停車場ヲ設備シ且ツ本線ニ接續スル支線ヲ布設シ或ハ在來ノ停車場ヲ取擴ケ以テ軍隊輸送ノ便ニ供セントス現ニ新橋停車場ノ如キ單ニ普通ノ旅客乘降貨物積卸ニ對スル便利ヲ謀リ設備シタルモノナレハ多數ノ軍隊輸送ヲ要スル場合ニハ大ニ不便ヲ感ス故ニ東京近郊適當ノ地ニアル停車場ヲ擴張シテ軍事普通兼用ノモノトシ或ハ別ニ軍事專用ノ停車場ヲ設備セントス是等ノ工事ハ第一期ノ線路布設ト同時ニ施行スルノ見込ヲ以テ其工費ヲ概計スルニ凡四拾萬五千圓ヲ要ス
以上ノ鐵道ハ經濟上軍事上一日モ速ニ布設ヲ要スルモノニシテ從來既ニ其計畫ヲ起シ一部ハ既ニ實測ヲ終ヘ又ハ技師ヲシテ實地ヲ踏査セシメタルモノナリ故ニ第一期ノ工事トシテ明治二十五年年度ヨリ九箇年間ニ竣功セシメントス尙其哩數及工費ノ概計ヲ表示スレハ左ノ如シ

第一期ニ布設スヘキ線路並ニ工費概算

線	區	哩	數	工	費
八王子甲府線			五四		四、九二〇、〇〇〇
三原馬關線			一五九		七、一五五、〇〇〇
佐賀佐世保線			四一		一、六四〇、〇〇〇
福島青森線			三〇九		一、二三六〇、〇〇〇
敦賀富山線			一二六		五六七〇、〇〇〇
直江津新發田線			一一〇		三、八五〇、〇〇〇
合 計			七九九		三五五九五、〇〇〇
外ニ軍用停車場及接續支線建設費					四〇五、〇〇〇

工費通計金三千六百萬圓

前記新設線路ノ内八王子甲府間即中央線、福島青森線、三原馬關線ハ所謂縱貫幹線ニシテ軍事上最重要ナルモノナルヲ以テ單線ニテハ十分ニ其目的ヲ

達スヘカラス然レトモ當初ヨリ複線ヲ布設セムトスレハ多額ノ資金ヲ要シ經濟上又必スシモ得策ナリトセス依テ此三線ノ敷地ハ初メヨリ複線ノ見込ヲ以テ之ヲ買収シ隧道橋梁等ノ如キモ他日複線布設ノ時ヲ待テ別ニ築設スルニ困難ナルモノハ豫メ複線布設ノ計畫ヲ以テ施工シ置カントス
各線布設工費總額金三千六百萬圓ハ明治二十五年年度ヨリ九箇年間ニ公債ヲ起シテ之ニ充テントス其公債ハ證書ヲ發行シテ之ヲ募集スレトモ一時ニ總額ヲ募集セシムルモノナレハ工事ノ進歩及支出ノ必要ヲ見計ヒ漸次其分額ヲ募集セシムルモノニシテ此公債ノ利子及元金償還其他ノ規定ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ例ニ依ラシメントス
各線ノ延長ハ合計凡七百九十九哩ナリ其間ニ依ラシメントス
トスレハ毎年平均凡百哩ノ新線ヲ開業シ得ル割合ナリ然レトモ地形ノ險夷工事ノ難易ニ隨ヒ甲午ニ於テハ僅ニ四五十哩ヲ竣功シ乙午ニ於テハ二百哩以上ヲ開業スルコトモアルヘキヲ以テ其工費ハ今ヨリ支出年割額ヲ豫定セシテ年々工事ノ實況ニ應ジ其支出額ヲ豫算セシトス但此工費ノ總額ト年數トハ本案ニ豫定スル如クナルヲ以テ之ヲ明治二十五年年度ヨリ九箇年間ニ支出スヘキ繼續費トナサントス

(內務大臣伯爵副島種臣君演壇ニ登ル)

○內務大臣(伯爵副島種臣君) エ 鐵道ノ要用ナルハ、先日總理大臣ヨリ此議場ニ向ッテ演說ヲ致サレマシタガ、唯今鐵道公債法案並ニ鐵道買收法案ニ附イテ、本大臣請求ヲ致シマスルハ、原案ノ通過、然リト雖モ公明ナル諸君ガ、弊害ハ少フシテ利益多イト云フ適當ナル御修正ガアルナラバ、政府ハ喜ンデ何時デモ御相談ヲ致スデゴザイマス

第二 右法案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(星亨君) 諸君、此本日ノ議事日程ノ第一ニ附イテハ、御議論モナイ様デアリマスカラ、即チ例ニ依ッテ委員ニ付スルコトニナリマセウト思ヒマス
左スレハ此委員ノ選ミ方等ハ如何致シマセウカ、若シ此委員ノ選ミ方ガ決定シタナラバ、本日ノ議事日程第三ノ委員モ、矢張之ト同ジ同委員ニ付シタガ宜カラウト思ヒマス、ツレ等ノコトヲ諸君ニ御諮リ致シマス
○佐藤里治君(百四十八番) 此委員ハ十八名ニ致シタイ望ヲ持テ居リマス、サウシテ各部通算ト云フコトニ……、其十八名ニ之ヲ望ムノハ伊藤君及小生ノ提出ニナツタ鐵道案ヲ同一委員ニ付託シタイカラ、員數ヲ多クシタイト云フノデゴザイマス、ツレカラ唯今議長ノ御宣告ニ買收法モ併セテト云フコトデゴザイマシタガ、是ハ此次ニ矢張買收法案ニ移リマシタ折ニ、此委員ニ付託スルヤ否ヤト云フコトハ、又別問題ニ致シタ方ガ宜シイト考ヘマス
(贊成々々ト呼ブ者多シ)

○折田兼至君(百五十八番) 一寸御尋ネシマスガ、百四十八番ノ提出サレタ議案ハ、昨日一時控ヘルカラト云ッテ引カレタト覺エテ居リマスガ、今現ニ出テ居リマスノデゴザイマスガ、今ノ陳述ニ依レバ併テツレヲモ調査スル……、

○議長(星亨君) 昨日ノ議事日程ヨリハ引カレテ居ルノデゴザリマス、併シ議長ノ手許マデハ受取ツテ居ル
別ニ諸君ニ於テ異議ナシモノト考ヘマス、即チ佐藤君ノ動議ノ委員ハ十八名ノ委員ニ付託スルコト云フコト……、起立ヲ問フマデノコトモゴザイマセヌト考ヘマスカラ、之ヲ確定致シテハ如何デゴザイマス

(異議ナシ異議ナシト呼ブ者多シ)

○議長(星亨君) 左スレバ則チ十八名ノ委員ヲ選ムコトニ致シマス、選ミ方ハ各部ニ於テ十八名ヲ選ンデ、之ヲ通算スルコト云フコトデゴザイマス、何レ委員ヲ御選ミニナリマシタナラバ、矢張昨日ノ例ニ依ツテ選ミマシタ上、明日御報道致スコトニ致シマス、是ヨリハ即チ今日ノ議事日程第二ニ移リマス、即チ私設鐵道買收法案ニ移リマス

第三 私設鐵道買收法案(政府提出)

第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參考ノタメ掲載ス)

私設鐵道買收法

第一條 凡テ公共ノ用ニ供スル鐵道ハ國ノ所有トスルノ必要ヲ認ムルニ依リ既成私設ノ鐵道ハ第二條以下ノ方法ニ依リ其會社ト協議シテ漸次政府ニ買收スルモノトス

第二條 私設鐵道ヲ政府ニ買收スルニハ其會社ノ興業費支出額又ハ株券拂込現額ヲ超過セサル價格ヲ以テス

鐵道會社ノ株券前三箇年間ノ價格ヲ平均シ興業費支出額又ハ株券拂込現額ヲ超過スルカ爲メニ前項制限ノ價格ヲ以テ買收スルコトヲ得サルトキハ政府ト會社トノ協議ニ依リ買收價格ヲ定ム

第三條 私設鐵道買收ノ費用ニ充ツル爲メ政府ハ五千萬圓ヲ限リ鐵道買收公債ヲ起スコトヲ得

此公債ハ買收ノ都度之ヲ起シ公債證書ヲ發行シテ買收ヲ約シタル鐵道會社ニ其買收代價トシ額面價格ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條 鐵道買收公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第五條 鐵道買收公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

私設鐵道買收法案理由書

近年會社ヲ組織シテ鐵道ヲ設ク企業シタルモノ其數渺カラスト雖モ當初計畫ノ目的ヲ誤ラス布設ノ功ヲ竣成シ略シ鐵道ノ面目ヲ具備スルニ至リタルモノハ僅ニ二三ニシテ他ノ私設鐵道ハ概ネ當初ノ目的ヲ達スルコト能ハスモテ或ハ全ク工事ニ著手セス或ハ布設工事半途ニシテ遂巡進ム能ハス或ハ已ニ大略竣功シテ營業ヲ始メタルモ收益意外ニ小額ニシテ維持ニ困メリ今日ノ勢ヲ以テ之ヲ見レハ是等私設鐵道カ當初ノ目的ヲ貫徹シ鐵道ノ眞面目ヲ具備スルニ至ルハ殆ント望ミ難キコトハ然ルニ其線路ハ概ネ全國樞要ノ地ヲ聯絡スヘキ最重要ノモノナルヲ以テ之カ布設ヲ遷延スルハ獨リ其地方ノ人民ニ不便ヲ感セシムルニ止ラス實ニ國力ヲ發達ヲ遲滞セシムルノ恐レアリ加之今日ノ有様ニテ之ヲ會社ニ放任シ置クトキハ鐵道普及ノ計畫ヲ立ルモ其目的ヲ達スルニ由ナク既成ノ鐵道モ亦竟ニ其效用ヲ全フスルコト能ハサルヘシ

若シ私設鐵道ノ既成線ヲ現今ノ儘ニ存在セシメ之ニ接スル國有線ヲ布設延長スル時ハ往々私設線ヲ中間ニ挾ムカ如キ不便アル上今後ノ延長布設ニ依テ既成ノ私設線ニ收利ヲ増スコトアルモ其増加ハ全ク會社ノ所得ニ歸シ收益少キ部分ノミ國有トナリ自カラ國庫ノ負擔ヲ重クシテ小數ナル株主ニ特殊ノ恩惠ヲ與フルカ如キ不公平ナル結果ヲ生スヘシ

現ニ布設ノ許可ヲ與ヘタル私設鐵道會社ハ十有七ニシテ既ニ運輸ヲ開始シタルモノハ十有三ナリ此會社ノ鐵道ハ皆所有主ヲ異ニシテ各別ニ其事業ヲ經營スルヲ以テ旅客貨物ノ運搬上公衆ノ不便ヲ受ルモノ少ナカラズ例ヘハ甲所有主ノ線路ト乙所有主ノ線路トニ跨ル貨物ノ運賃額ハ其距離長遠ニ涉ル場合ニモ同一ナル所有主ノ線路ノ同距離ニ於ケル貨額ヨリハ高カラサルヲ得サルコトアル如キ是ナリ又線路ノ延長僅ニ數哩ニ過キスシテ一箇ノ鐵道會社獨立スルヲ以テ鐵道ノ管理經營上ニ係ル費途即チ本費ト稱スルモノハ勿論車輛器械ノ修理ニ必要ナル器械場ノ設備維持ニ係ル費用等總テ割合ニ多額ナラサルヲ得ス故ニ假令收入ハ相當ノ金額ニ上ル線路ト雖モ純益トシテ株主ニ配當スルヲ得ル金額ハ甚タ減少セサルヲ得ス隨テ旅客貨物ノ賃額ヲ低廉ニシ又ハ車輛其他ニ改良ヲ加ヘテ大ニ公衆ノ便ヲ謀ルカ如キコトハ短線薄資ノ鐵道會社ニ望ムヘカラサル事トス

以上述フル所ノ現狀ト其他私設鐵道ニ隨伴シテ將來起ラントスルノ弊害トヲ慮ルトキハ今ニシテ國有鐵道ノ方針ヲ定メ現在ノ私設鐵道ヲ政府ニ買收シ管理經營一途ニ歸セシムルハ國家ノ大計上ニ於テ策ノ最モ得タルモノトス況ンヤ鐵道ハ公共ノ用ニ供スヘキ設立物ニシテ收益ノ多カラシヨリ寧ロ公利公益ヲ進ムルヲ主眼ト爲スヘキモノナレハ營利的ノ民業ト爲スニ適セス即郵便電信ト同シク國家ノ事業トシテ經營スルヲ當然トスルノ理由アルニ於テオヤ殊ニ今日ハ私設鐵道ヲ買收スルニ最適當ナル時勢ニシテ買收ノ事行ハレ之ヲ國有ニ移スト同時ニ其延長普及ヲ謀ルトキハ始テ鐵道ノ經濟ヲ確立スルヲ得ヘシ其買收ノ方法ニ就テハ政府ト會社トノ協議ニ由テ之ヲ定メシムルノ精神ニシテ法律ノ效力ヲ以テ買收ヲ命スルニアラスト雖モ買收價格ハ會社ノ株券拂込額ヲ超過セサルノ制限ヲ設クルヲ必要ナリト信ス但日本鐵道會社ノ如キ其株券ノ實價高キモノニ在テハ拂込現額以內ニテ買收スルノ難キヲ認ムルニ依リ此場合ニ對シテ第二條末項ノ規定ヲ設ケタリ

買收ノ資金ハ凡五千萬圓ヲ要スヘキ見込ナリ此資金ハ公債ヲ起シテ之ニ充テントス但此公債ハ公衆ヨリ募集セシメテ買收ノ契約成ル毎ニ公債證書ヲ發行シ買收代價トシテ之ヲ會社ニ交付セントス而シテ其公債ニ關スル爾餘ノ規定ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ラシメントス

第四 右議案ノ審查ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○藥袋義一君(二百十三番) 矢張是モ此公債法案ノ委員ニ付託スルコトニ委員ヲ設ケタイノデアリマス

○工藤行幹君(二百六十六番) 是ハ全ク別物デアリマスカラ、矢張是ハ其九名ノ委員ヲ各部デ選ンデ、通算スルコトニ別ニ委員ヲ設ケルコトニ、私ハ致シタイ

○大島信君(二百六十一番) 私設鐵道買收法案ハ、矢張最前ノ議案ト關聯シテ

居ルノデゴザイマスカラ、二百十三番ノ言フ如ク、私モ同意デゴザイマス

(誤解々々ト呼ブ者アリ)

○議長(星亨君) 是ヨリ決テ採リマスガ、此ニツ動議ガ出テ居リマス、即チ第一ニハ委員ヲ選ムニハ其本日ノ議事日程第一ノ委員ニ付託スルト云フコト、ソレカラ新タニ委員ヲ九名別ニ選ムト云フコトデゴザイマス

(賛成ガアリマセスト呼ブ者アリ)

○議長(星亨君) アリマス、一人ゴザイマス

○早川龍介君(三十七番) 若シナカッタラ、私モ同意デゴザイマス

○渡邊徹君(三十五番) 私モ同意デゴザイマス

○議長(星亨君) 一人アッタ、其事ハ一人人宜シイト思ヒマス

○山田泰造君(百十三番) 十八名ト定マツテアリマシタガ、マダ此方ニハ人員ガ定マツテ居リマセヌヤウデゴザイマス

○議長(星亨君) 前ノ委員ト云フコトデセウ、即チ十八名ノコトデスナ

○山田泰造君(百十三番) 左様

○工藤行幹君(百六十六番) 確カニ第三ノ所ヲ申シテ置キマス、是ハ全ク九名ニシテ各部ニ於テ選ミ、各部通算シテヤラウト云フノデアリマスカラ、其御積リデ

(賛成々々ト呼ブ者多シ)

○議長(星亨君) サウスルト二百十三番ノ動議カラ採リマスガ、二百十三番ハ前ノ十八名ニシテ、第一ノ委員ニ付スルト云フコトデゴザイマス、而シテ之ヲ起立ニ採ルト云フコトハ、又議論ガ生ズルヤウニ考ヘマスカラシテ、直ニ無名投票ニ致スコトガ宜カラウト考ヘル

(起立々々氏名點呼氏名點呼ト呼ブ者アリ)

○議長(星亨君) ドウシマスカ、即チ無名投票ナラ議長ガ採ルコトガ出來ルデス、併シ氏名點呼ニナルト、議長ハ實ハ出來ナイ譯デゴザイマス

○齋藤圭次君(二百七十三番) 二百七十三番ハ是ハ氏名點呼デ決スルコトヲ希望致シマス

○鈴木萬次郎君(三十八番) 賛成

(賛成々々ト呼ブ者多シ)

○議長(星亨君) サウスルト云フト、諸君ニ於テ議論ガゴザイマスナラ、氏名點呼ニスルヤ否ヤト云フコトヲ、議場ニ諮フ外ハナイト考ヘマス、無名點呼ナラ直ニ議長ガ云フコトガ出來ルノデゴザイマス

○安東九華君(二百三十番) 議長ノ宣告ノ通無名點呼(笑聲起ル)無名投票デヨロシイ……是ハ言ヒ損タノデアル

○議長(星亨君) 併シ議長ハ無名投票デ採ルト云フコトニ議論ガアツタ以上ハ、之ヲ點呼デ採ルヤ否ヤノ決ヲ採ルヨリ外ハナイ、即チ此氏名點呼ニスルト云フ說ニ賛成ノ方ハ、起立ナサイ

起立者

○議長(星亨君) 少數ト認メマス

(多數少數ノ聲交、起ル)

○議長(星亨君) 少數ト認メテ居ルノデス

○河島靜君(百六十八番) 異議ヲ申立デマス

○立川雲平君(二百六十七番) 是ハドウモ無名點呼ヲスル場合デナイノニ、

議長ガ無名點呼ノ御宣告ニナツタカラ、斯ウナツタノデ、又此事ニ就テ氏名點呼ヲセヌケレバナラヌ故ニ、議長ハ手數ヲ省カウトシテ却テ錯雜致シマシタ、委員ヲ十八名トスルヤ否ヤニ附イテ起立ヲ御諮ヒナサレテ、其上異議ガアツタナラバ、又……

○議長(星亨君) 議長ハ法律ニ從ッテ議長ノ任ヲ盡シマスカラシテ、或ハ間違ッタラ諸君ノ注意ヲ受ケルカモ知レマセヌケレドモ、此點ニ於テハ議長ハ間違ヒナイ、氏名點呼ニ採リマス、即チ既ニ起立ニ諮フタラ、異議ガ出來タ、而シテ是ハ餘程面倒ナ話デゴザイマスケレドモ、是亦法律ニ制セラレテ已ムヲ得マセヌカラ、矢張り氏名點呼ニスルヨリ外ハナイト思ヒマス

(然リニミト呼ブ者アリ)

○古谷新作君(八十七番) 一寸議長ニ請求スルコトガゴザイマス、氏名點呼ニナレバ(無用々々ノ聲起ル)是マデ賛成者ト反對者トデハ分リ兼ネマスカラ、昨日モ議長ヨリ男ヲシク大キナ聲ヲシテ點呼ニ應ジロト云フコトモアリマシタガ、是ハ人ノ性質ニ依ッテ大聲モ(無用々々ノ聲起ル)ドウゾ是ハ氏名點呼ヲシマスニハ、誰君ト呼バレルト、賛成ト云ヒ、反對ト云フ時ニ其點數ヲ調ベル御掛リガ、諸君、賛成或ハ反對ト呼バレルタナラバ左様ナコトハナカラウト考ヘルカラ、此段建議ヲ致シマス

(無用々々ノ聲起ル)

○議長(星亨君) ソレハ掛リ人ノ考ニ任セルコトニ致シマス、若シ掛リ人ガ怪イト思ヒタラ、左様致シマセウ

○古谷新作君(八十七番) サウナリマシタナラバ、宜カラウト考ヘマシタ

(無用々々ノ聲起ル)

○倉田準五郎君(八十八番) 氏名點呼ノ聲ガ分ラヌト云フ方モゴザイマスガ、(無用々々ノ聲起ル)規則通りニ行ッタラ分ルト思ヒマス、規則ガ……(無用無用分々々々ト呼ブ者アリ)又點呼ヲ早ク行ハレンコトヲ希望致シマスト呼ブ者アリ

○議長(星亨君) 諸君ニ念ノタメニ申シマスガ、即チ此氏名點呼ニスルヤ否ヤト云フ事ガ問題ニナツテ居リマスガ、氏名點呼ニスルト云フ方ガ、即チ賛成トナリマシテ、氏名點呼ヲシナイト云フノガ反對ニナリマスカラ、左様御心得ヲ願ヒマス

(町田書記官氏名ヲ點呼ス)

(兒山陶君、先刻少シ私ハ誤解ヲ致シマシタ反對ヲ……)

(取消シハイカナイト呼ブ者アリ)

○議長(星亨君) 諸君ニ氏名點呼ノ結果ヲ御報道致シマス

出席者總員 二百四十九

氏名點呼ヲ可トスル者 百十九

否トスル者 百三十

丁度議長ガ宣告ノ通りナリマス

(拍手スル者アリ)

○井上角五郎君(七十六番) 一寸議長ニ質問ヲ致シマスガ、今無名投票ヲナスノニ、白ヲ入レル者ハ斯ウ云フコトデアル、黒ヲ入レル者ハ斯ウ云フコトデアルト云フコトヲ、一應御宣告ヲ願ツテ置キマス

○議長(星亨君) 一寸今少シ……

是ヨリ閉鎖ヲ致シマス、左様御心得ヲ……、是ヨリ無名投票——投票ニ取掛リマスガ、尙ホ念ノタメ諸君ニ御注意ヲ申上ゲマス、即チ二百十三番ノ勸議ガ玆ニ問題トナツテ居リマスノデ、ソレハ本日ノ議事日程第三項ノ委員ヲ、第一項ノ委員ニ付スルト云フコトデゴザイマスガ、其説ヲ可トナサル御方ハ白球ヲ入レル、——白ト云フモ黃色ナ球デス、ソレカラ否トスル御方ハ黒球ヲ入レル、左様御心得、而シテ名札ノ用紙ハ机ノ上カ下ニゴザイマス

〔小池書記官氏名ヲ點呼ス〕

○議長(星亨君) 球ヲ御入レニナルコトノ、落チテ居ル方ハアリマセヌカ、……、ジャア今ノハ間違ヒダサウデス
是ヨリ球ヲ開票致シマス

〔書記官球ト名刺トヲ計算ス〕

○議長(星亨君) 諸君ニ無名投票ヲ御報告致シマス

出席者總數 二百五十一

可トスル者 百三十

否トスル者 百二十一

サウスルト即チ問題ヲ可トスル者ガ多數デアリマス、依テ此本日ノ議事日程ノ第四ノ委員ハ尙ホ本日ノ議事日程ノ第二ノ委員ニ付託スルト云フコトデゴザイマス、左様御承知ヲ……

第五 震災地方租稅特別處分法案(政府提出) 第一讀會

○議長(星亨君) 是ヨリ次ノ議事日程ニ移リマス、是ハ大層長イサウデアリマスカラ、朗讀ハ省キマス
〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參考ノタメ掲載ス〕

第一條 震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渇水路破滅等ノ爲メ地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲メ又ハ其餘害ヲ受ケタル爲メ收利ノ減損甚シキ土地ハ其實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年率ヲ附與スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若クハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若クハ市街ニ準スヘキ部落ハ其實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年率ヲ其地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年率明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其他ノ損害ヲ受タル者ハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ五年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 所得納稅者ニシテ所得ヲ減損シタル者ハ其減損高所得稅法第二十三條規定ノ制限ニ達セサルモ其資力ヲ斟酌シテ明治二十四年後半年分所得稅金ヲ減免スルコトヲ得

第九條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタル者ハ其實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第十條 醬油菓子賣藥烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其實況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ稅金

一 醬油營業稅菓子營業稅賣藥營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ稅金

第十一條 本法ニ依リ損害取調中ハ其租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十二條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十三條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスルモノハ明治二十五年八月三十一日迄ニ申出ヘシ若シ此期限内ニ申出サルモノハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

震災地方租稅特別處分法案理由書

昨明治二十四年十月二十八日震災劇烈ニシテ其損害ノ非常ナル今復タ喋々ヲ要セス而テ租稅ノ賦課物件及ヒ納稅者ニ及ボシタル影響モ亦太タ夥カラサルヲ以テ之ニ對シ相當ノ處分ヲ與ヘントスルモ其災害ノ變狀奇態ナル又被害者痛苦ノ切迫ナル尋常法規ノ豫期外ニ出テ之ニ處スルノ道ナキヲ以テ特ニ其處分法ヲ設ケ之ヲ救フノ道ヲ開カントス是レ本法ノ制定ヲ要スル所以ナリ

〔政府委員大藏次官渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○政府委員(渡邊國武君) 諸君、客年十月ノ美濃尾張地方ノ非常ナル震災ニ附キマシテ、生命財產ヲ破リ、夥シキ損害ヲ受ケマシタコトハ諸君モ御熟知ノコトデアリマス、就テハ減稅免稅處分ノ如キモ、斯ノ如キ絶無僅有ナル大災害ニ向ッテハ、通常法律ニ規定シテ條規ノミヲ以テ處分致シマストキハ、甚ダ實際ト齟齬扞格スル所ガアルト思ヒマス、是モ諸君ガ御承知ノアルコトト思ヒマスカラ、強テ喋々致シマセヌ、就テハ本案提出ノ止ムヲ得ザル理由ハ、簡單ナガラモ本院ニ提出シテアリマス理由書デ、十分要領ヲ盡シテ居ルト思ヒマスカラ、諸君ハ成ルベク速ニ本案ヲ通過セシメラレテ、該地方ノ災餘ノ人民、即チ我々ノ同胞兄弟中目下不幸ナル場合ニ遭遇シテ居ル者ヲシテ、一日モ早ク其堵ニ安ンゼシメラレコトヲ、内閣ハ切ニ希望致シマス

○議長(星亨君) 別ニ御異議ガナケレバ、即チ之ヲ委員ニ付スルコトニ致シマス

(未完)